

第22回 名鉄西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅）対策協議会総会 議事録

日 時：令和元年12月20日（金）午前10時～10時40分

場 所：西尾市役所52AB会議室

出席者：（構 成 員）西尾市 長島副市長

蒲郡市 井澤副市長

愛知県都市整備局交通対策課 片桐課長

（オブザーバー）国土交通省中部運輸局鉄道部監理課 鈴木課長

名古屋鉄道株式会社鉄道事業本部計画部 名倉部長

[発言要旨]

1 開会

（会長：西尾市）

本日の総会は、平成30年度名鉄西尾・蒲郡線の概況と、西尾・蒲郡線の鉄道運行・支援に関する協議についての報告、その他として「にしがま線げんき戦略について」現状報告を予定している。

2 報告事項

（1）平成30年度名鉄西尾・蒲郡線の概況について（名古屋鉄道）

資料1に基づいて報告

（2）名鉄西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅）の鉄道運行・支援に関する協議について

（事務局：西尾市地域つながり課）

資料2に基づいて報告

3 その他

にしがま線げんき戦略に係る現状報告について（事務局：西尾市地域つながり課）

資料3に基づいて概要と現状の報告

4 意見交換

(蒲郡市)

蒲郡市は昨年度から、ボートレース蒲郡で場内利用券配布サービスを行っている。さらに、名鉄の「でんしゃ旅」の宿泊者特典として、宿泊施設館内利用券1,000円と竹島水族館入館券の配布を10月から始めており、昨年下半年で1,600人にご利用いただいた。その他、駅前コンサート、ぶらりんウォークなどを実施している。

存続に向けて協議を開始したが、前回に比べ1年以上も早く始まるため、進学を希望する学生やご家族にはありがたい話であり、早期にまとまるよう努力していきたい。

(愛知県)

名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会において、沿線外から観光客を呼び込む誘客推進事業が進められており、県としても支援をしている。今後も両市の取り組みに協力していきたい。

輸送人員は関係者の取り組みによって徐々にではあるが増加している。しかし、通学定期利用者が減少している点に危惧している。学生にとって在学期間中、名鉄西尾・蒲郡線で安心して通学できることが進路選択の上で重要な判断材料となる。令和3年度以降の運行について、現在進められている協議を早くまとめ、路線の維持・存続の合意が得られるようお願いしたい。

(中部運輸局)

運行に向けた協議開始の報告があった。利用者への安心感にもつながるため、関係者の協力をお願いしたい。

運輸局としては観光面にも力を入れており、三河地域の複数の観光促進事業を展開。西尾市観光協会と連携した、魅力創造事業等を実施している。これらの取り組みが名鉄西尾・蒲郡線の利用促進にもつながっていくことを期待している。

地方鉄道の誘客促進事例集を作成した。今後の参考にしてほしい。

(名古屋鉄道株式会社)

当社の取り組みとして、かき氷やパフェをテーマに西尾キャンペーンを展開。その他、今月2日から6日にかけて、形原駅をスタートし、三河鹿島駅にゴールとする秋葉神社などの紅葉を楽しめる沿線ハイキングを設定し、多くの方に楽しんでいただいた。また、西浦温泉を含めた「でんしゃ旅」の発売も引き続き行っている。

輸送人員はゆるやかに増加基調だが、輸送密度は低水準で推移し、依然として毎年7億円以上の大幅な赤字。大量輸送という特性を生かされないほど利用者が少なく、自助努力だけでは路線を存続するには厳しいという状況は変わらない。

設備面では、安全上廃止することが望ましい第3種踏切が残っていることや駅舎の老朽化など、早急に解決すべき点があり、今後、詳細な話し合いを進めてまいりたい。

(西尾市)

西尾市では現在、西尾駅を中心とした大規模なバス路線の再編に取り組んでいるところ。名鉄西尾・蒲郡線は本市の公共交通の基軸をなしており、この路線の存続と沿線地域の発展は一体のものと考えている。運行に向けた協議開始の報告があったが、沿線の高校への進学を後押しするためにも、早期の確認書の締結を目指していきたい。

以上